

2025年8月29日

SAAJ NEWS RELEASE

「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に 関するアンケート結果を公表

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：鳥海 智絵 野村證券株式会社 代表取締役副社長）（以下、「当協会」という。）のディスクロージャー研究会（座長：許斐 潤 野村證券株式会社 金融経済研究所 シニア・リサーチ・フェロー兼アドバイザー）は、2025年8月29日に「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート結果を公表しました。

中小型株等上場企業については、アナリスト評価の対象となっていない企業が多く、企業価値向上や持続的成長の実現の観点から情報開示の一層の向上について、何らかの支援等を行う取組みが必要であると考えられます。そこで今般、当協会のIRミーティングに登録したIR活動に熱心な中小型株等上場企業を対象にアンケートによる意向調査を実施し、当該企業がどのような取組みを期待しているのかなどを直接把握したものです。

今後は、当該アンケート結果を踏まえ、アナリストの立場から中小型株等上場企業に向けた施策を検討してまいります。

【添付資料】

[「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート結果（要約版）](#)

[「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート結果（詳細版）](#)

[「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート質問項目等](#)

お問い合わせ先

SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会事務局
(disclosure@saa.or.jp)

五十嵐 俊 樹（電話：03-3666-9618）

関 根 弘 行（電話：03-3666-2675）

梅 本 慶 治（電話：03-3666-1272）

「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート結果

(要約版)

2025年8月29日

公益社団法人日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会

アンケートの目的

中小型株等上場企業のIRの現状等を把握し、併せて日本証券アナリスト協会に求める情報開示向上の支援策（注）について意向を探る。

（注）以下の3つの支援策を選択肢として提示

- ①アナリスト等による相談窓口の設置
- ②好事例集、対話ガイドラインの作成・公表
- ③中小型株等上場企業を対象とするディスクロージャー優良企業表彰制度の創設

実施概要

- ・ 調査期間 2025年5月16日（金）～6月6日（金）
- ・ 調査対象 当協会のIRミーティングに登録している中小型株等上場企業340社
- ・ 回答数 136社（回答率：40.0%）

I 回答者の属性（136社）

- ・ 上場市場は、**スタンダードが最多**（プライム46社、スタンダード74社、グロース16社）… P3【図表1】
- ・ 上場後5年以上がほとんど（94.9%）… P3【図表2】
- ・ 時価総額**500億円未満が約8割、100億円未満が約4割**
（100億円以上500億円未満39.7%、100億円未満42.7%）…P3【図表3】

II IRの現状

1. 体制

IR専任者・専任部署を置く企業は3割台であり、総じて体制は脆弱。

- ・ **IR専任担当なし**（66.2%）や**IR専任部署なし**（62.5%）とする企業が**6割以上** …P4【図表4・5】
- ・ 専任部署がある場合の主担当は「**企画部門**」が最多、次いで「**広報部門**」…P4【図表6】
- ・ 時価総額**100億円未満では、IR専任担当なしが7割を超える**
- ・ IR担当者は兼務を含み**2人が最多** …P4【図表4】

2. 活動状況

特に注力しているものは**決算説明会**（70.6%）。次いで **バイサイド個別取材対応**（42.6%）だが、取材対応が年間10件未満の企業が過半。セルサイドへの取材対応も年間5件未満と少ない。P7~9【図表10・11・13】

3. 課題

- ・ IRの課題は、**効果測定が困難、IR人材の不足、IR経験の不足、機関投資家やアナリストとの接点不足**などで、
時価総額が100億円未満では「機関投資家との接点不足」の割合が高い（56.9%） P10【図表15】
- ・ **企業情報の開示・発信等にかかる課題は、開示知識の向上、資料作成ノウハウの蓄積、説明会における集客力の改善、非財務情報の開示**などで、
時価総額100億円未満では「集客力改善」の割合が最も高い（53.4%） P13【図表18】

（注）回答企業のうち約4分の3は、現在乃至過去にIR支援会社を利用と回答しており、上記課題の回答との関係については、明らかではないところがある。

Ⅲ 情報開示向上のための支援策

1. 希望する支援策

- ・希望する支援策は、「相談窓口」が最も多かったが、「好事例集、対話ガイドライン」も半数を超え拮抗。但し前者は無料のみ希望が大半で、有料でも希望は僅少…P14【図表19】

相談窓口（58.1%）～無料希望52.2%、有料でも希望は5.9%～

好事例集、対話ガイドラインの作成・公表（55.9%）

表彰制度（27.9%）

2. 支援の具体的なニーズ

○相談窓口の設置に関連して

- ・アナリストに相談したいことは、効果的なIR手法や成長戦略、非財務情報の開示方法、IR資料の改善点や投資家視点のポイント、投資判断に寄与する情報の充実など多岐にわたる …P21【図表27】

- ・ IR支援会社を利用したことがある企業は、101社/136社（74.3%）と多い …P22【図表28】
 - ✓利用目的は、IRの効率化やIR体制の強化など …P22【図表29】
 - ✓利用して良かった点は、業務の効率化や多くの投資家への情報発信など …P22【図表30】
- ・ IR支援会社を利用したことがない理由は、費用が高いことや費用対効果が測定しにくいことなど …P22【図表32】

○好事例集、対話ガイドラインの作成・公表に関連して

- ・ 希望する好事例集等の内容は、企業価値向上策、アナリスト・投資家対応に関すること、セクター別・企業規模別事例など …P18【図表23】
- ・ IRの参考にした資料は、東証作成の「資本コストや株価を意識した経営」に関する「投資家目線とギャップのある事例」等が最も多い …P19【図表25】
- ・ 参考にした好事例集等の良かった点は、投資家目線でのポイントが記載されていたことや自社IR資料作成の参考になったこと、具体的な他社事例を把握することができたことなど …P20【図表26】

「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート結果

(詳細版)

2025年8月29日

公益社団法人日本証券アナリスト協会

ディスクロージャー研究会

■アンケートの背景と目的

- ・ 背景：日本証券アナリスト協会はディスクロージャー優良企業選定事業を1995年から実施しているが、評価対象は主に大企業（約350社）に限られている。
- ・ 目的：評価対象外の中小型株等企業に対し、IRの現状等を把握し、併せて同協会に求める情報開示向上の支援策（注）について意向を探る。

（注）以下の3つの支援策を選択肢として提示

- ①アナリスト等による相談窓口の設置
- ②好事例集、対話ガイドラインの作成・公表
- ③中小型株等上場企業を対象とするディスクロージャー優良企業表彰制度の創設

■実施概要

- ・ 調査期間 2025年5月16日（金）～6月6日（金）
- ・ 調査対象 当協会のIRミーティングに登録している中小型株等上場企業340社
- ・ 回答数 136社（回答率：40.0%）

■目次

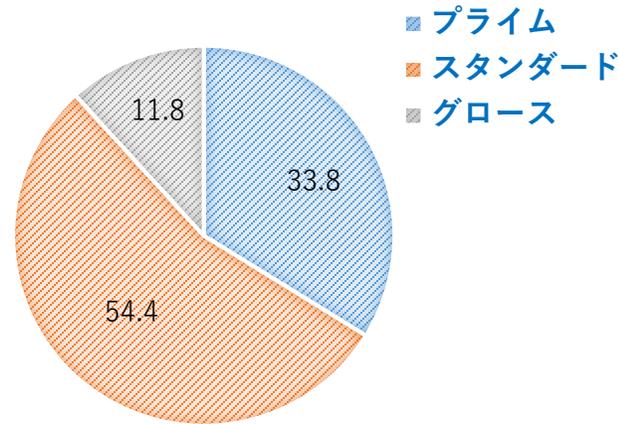
I	回答者の属性	Q 1 ~ 3	・・・ P 3
II	IRの体制	Q 4 ~ 8	・・・ P 4
III	IRの現状	Q 9 ~ 13	・・・ P 5
IV	IRの課題	Q 14 ~ 16	・・・ P 10
V	支援ニーズと希望施策	Q 17 ~ 30	・・・ P 14
VI	IR支援にかかる意見・要望等	Q 31 ~ 33	・・・ P 23
VII	当協会の活動に関する意見・要望等	Q 34	・・・ P 23

I 回答者の属性

Q1 取引所市場区分は

スタンダードが最多 (54.4%)

上場区分【図表1】



	回答数	%
全体	136	100.0
プライム	46	33.8
スタンダード	74	54.4
グロース	16	11.8

Q2 取引所上場期間は

5年以上が約95%

上場期間【図表2】

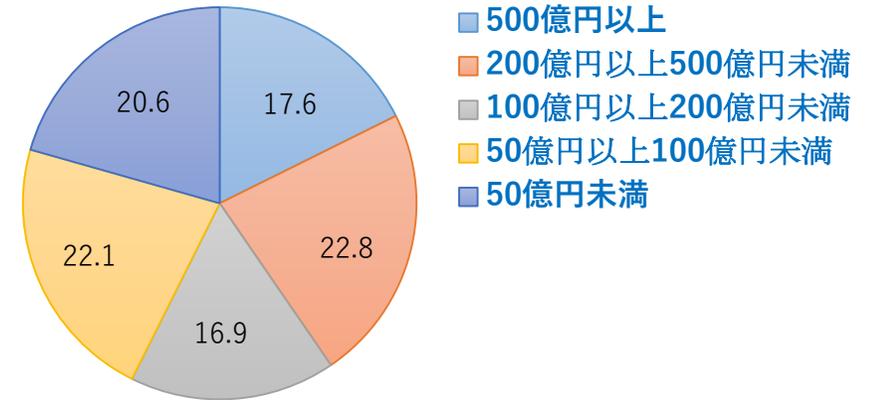


	回答数	%
全体	136	100.0
5年以上	129	94.9
1年以上～5年未満	6	4.4
1年未満	1	0.7

Q3 時価総額は

500億円未満が約8割
100億円未満が約4割

時価総額【図表3】

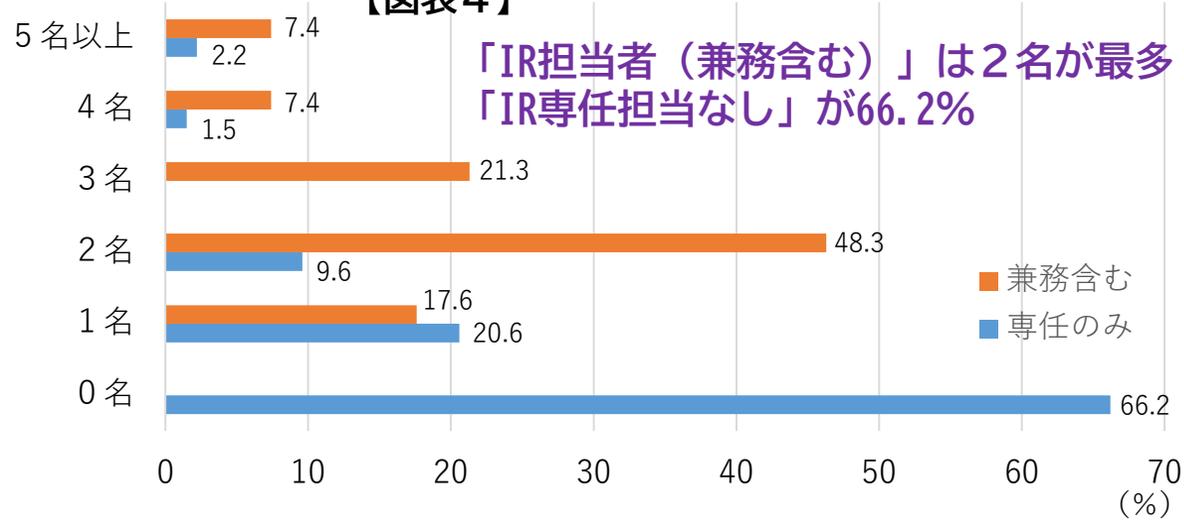


	回答数	%
全体	136	100.0
500億円以上	24	17.6
200億円以上～500億円未満	31	22.8
100億円以上～200億円未満	23	16.9
50億円以上～100億円未満	30	22.1
50億円未満	28	20.6

II IRの体制

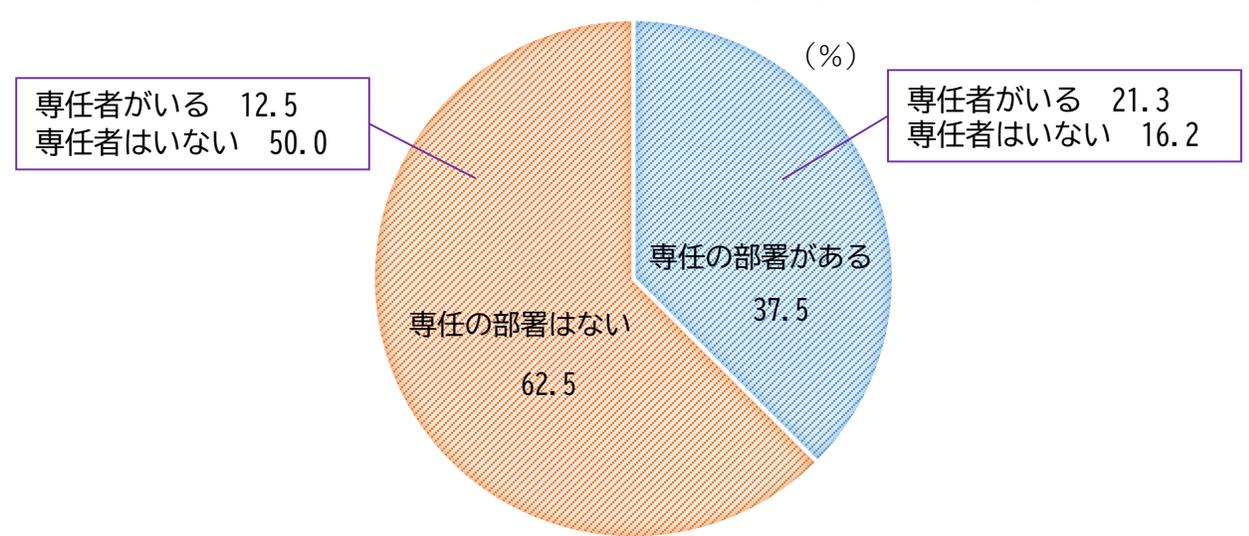
Q4・5 IR担当者の人数（兼務含む・専任のみ）は

【図表4】

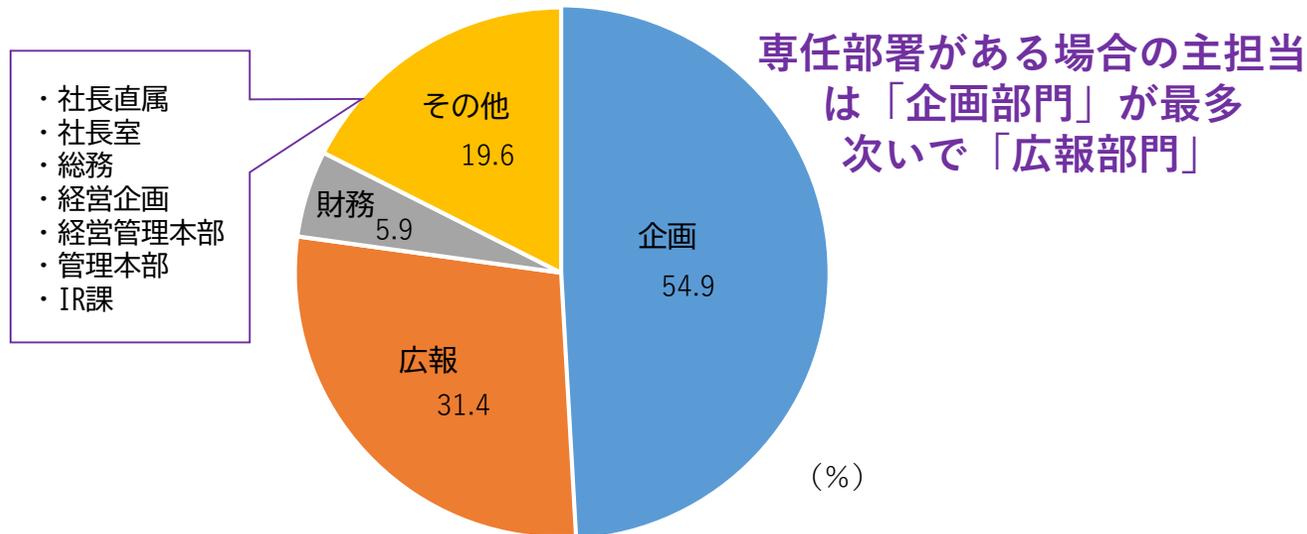


Q6 IR体制は【図表5】

「専任部署はない」が62.5%

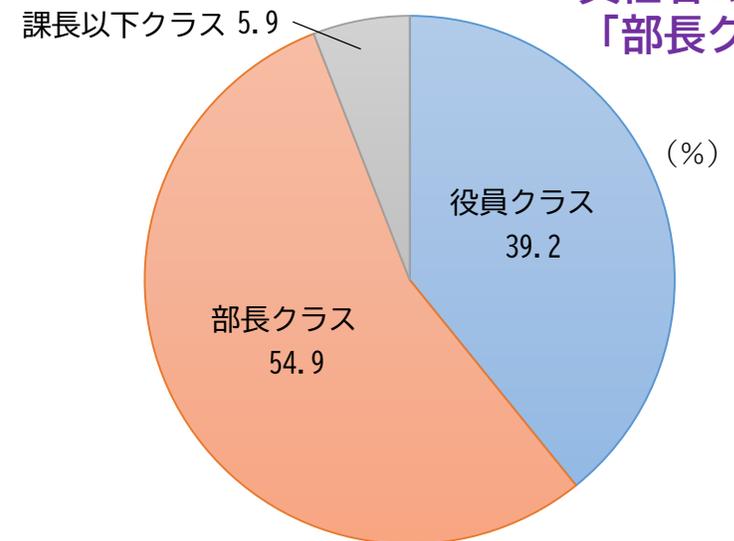


Q7 IR部署が所属する部門は【図表6】



Q8 IR部署の責任者は【図表7】

責任者の役職は「部長クラス」が最多

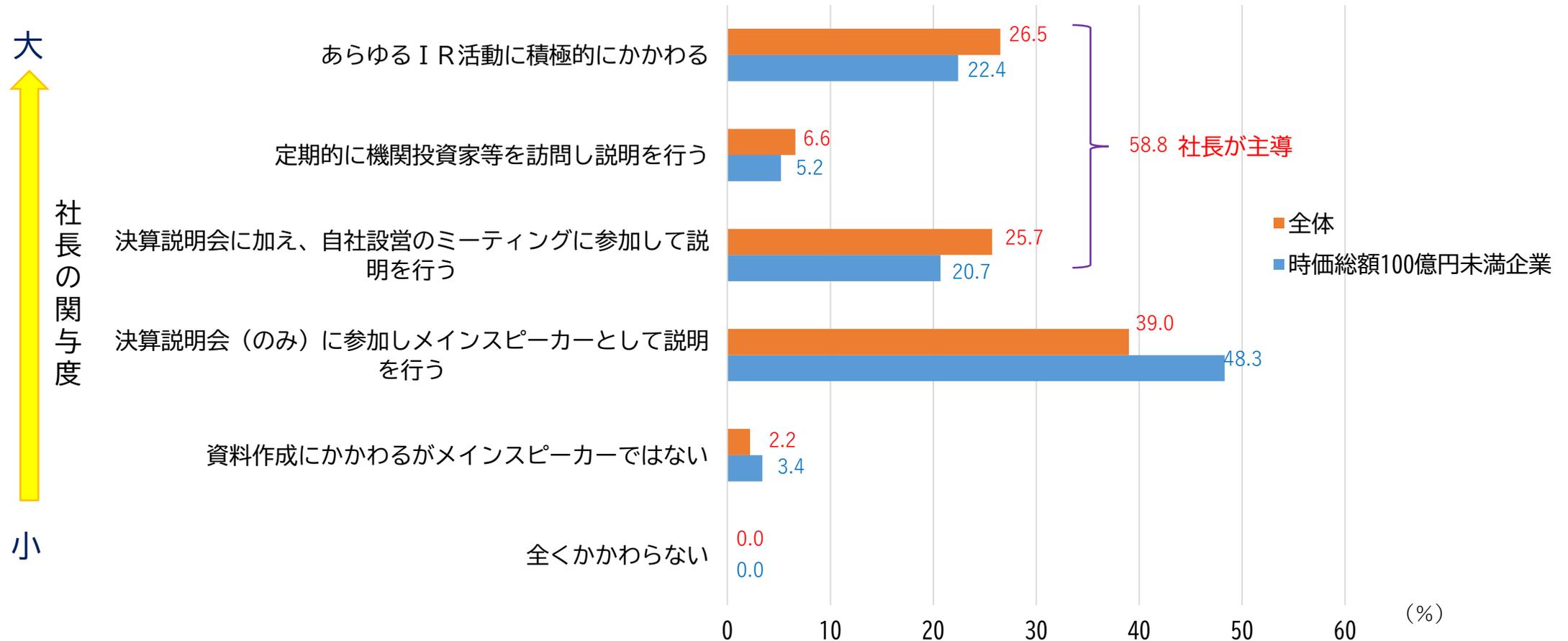


Ⅲ IRの現状

Q9 社長のIR姿勢について最も近いものは

社長が決算説明会でメインスピーカーとして説明するほか、「あらゆるIR活動に積極的にかかわる」や「自社設営のミーティングに参加して説明を行う」など、社長が主導するIR活動が半数以上（58.8%）

【図表8】



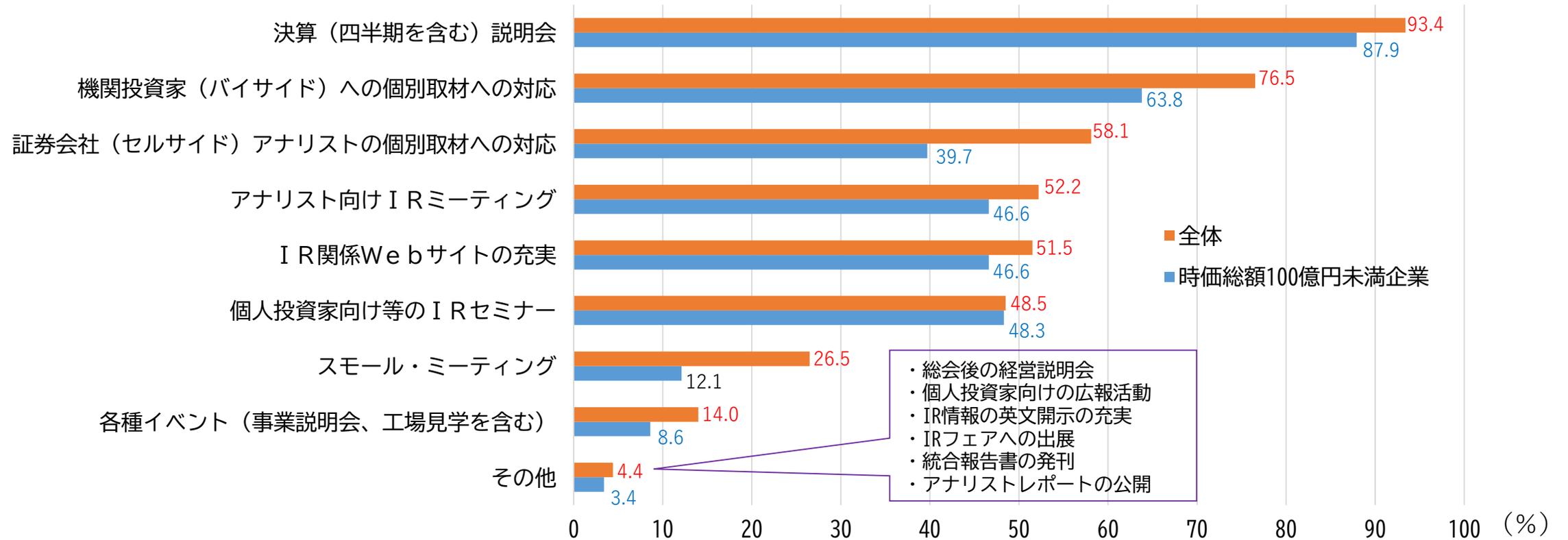
Ⅲ IRの現状

Q10 貴社が現状行っているIR活動は（複数回答可）

主なIR活動は「決算説明会」や「バイサイド個別取材対応」

「セルサイド個別取材対応」や「アナリスト向けIRミーティング」も半数以上

【図表9】



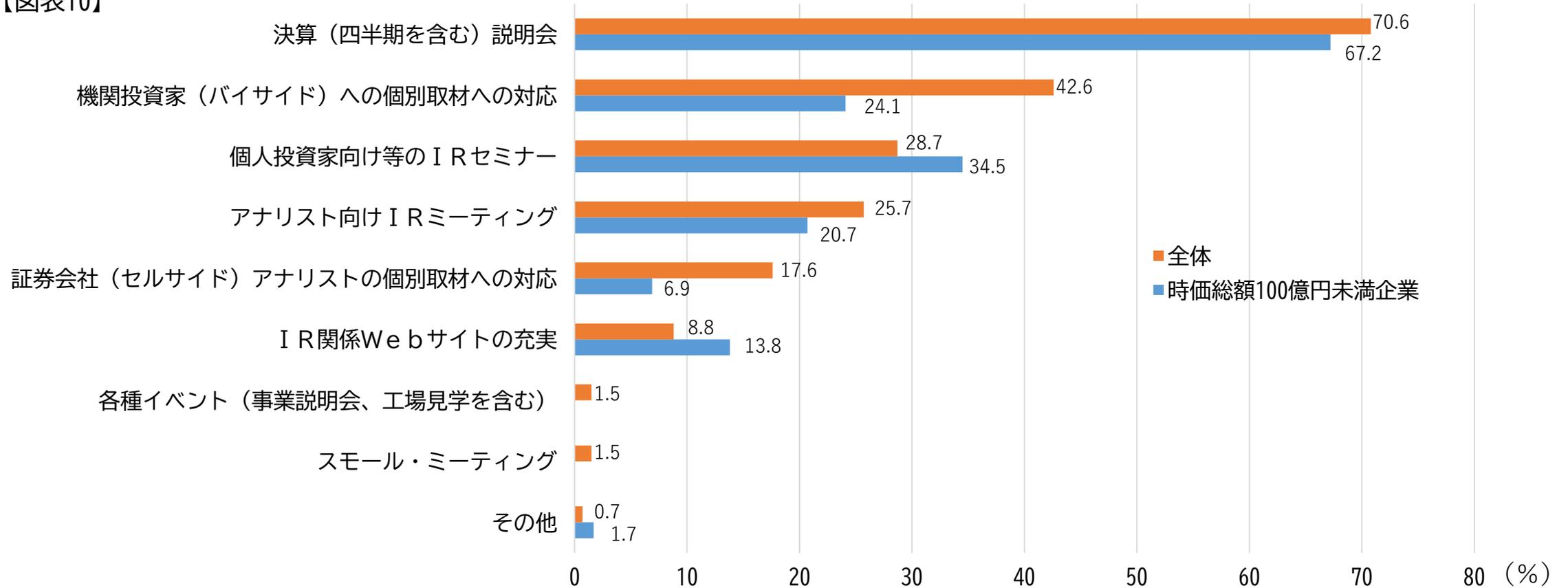
Ⅲ IRの現状

Q11 上記Q10で回答したIR活動のうち、貴社が特に注力しているものは（3つ以内）

約7割の企業が「決算説明会」を挙げている

時価総額100億円未満の企業では「個人投資家向け等のIRセミナー」の割合が高い（34.5%）

【図表10】

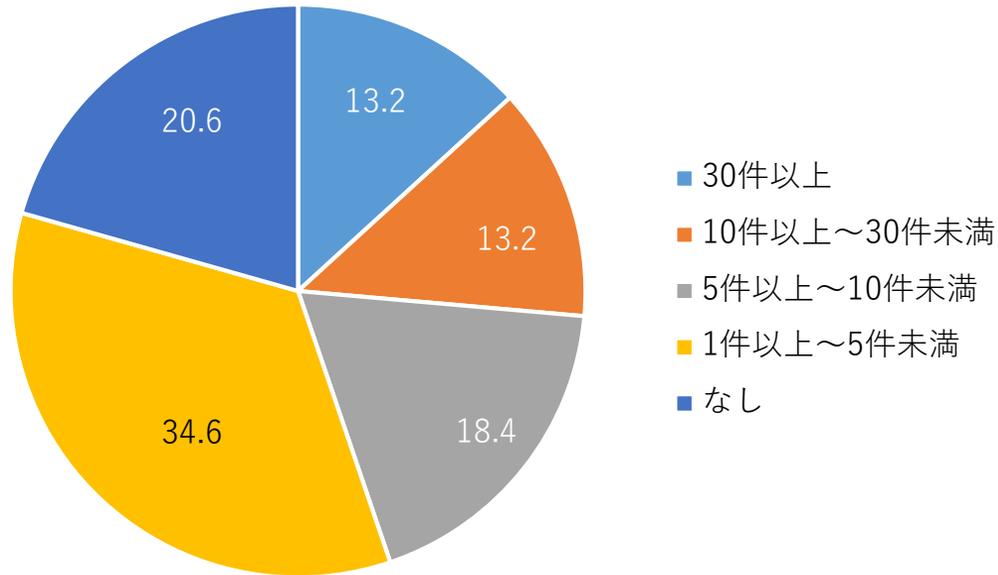


Ⅲ IRの現状

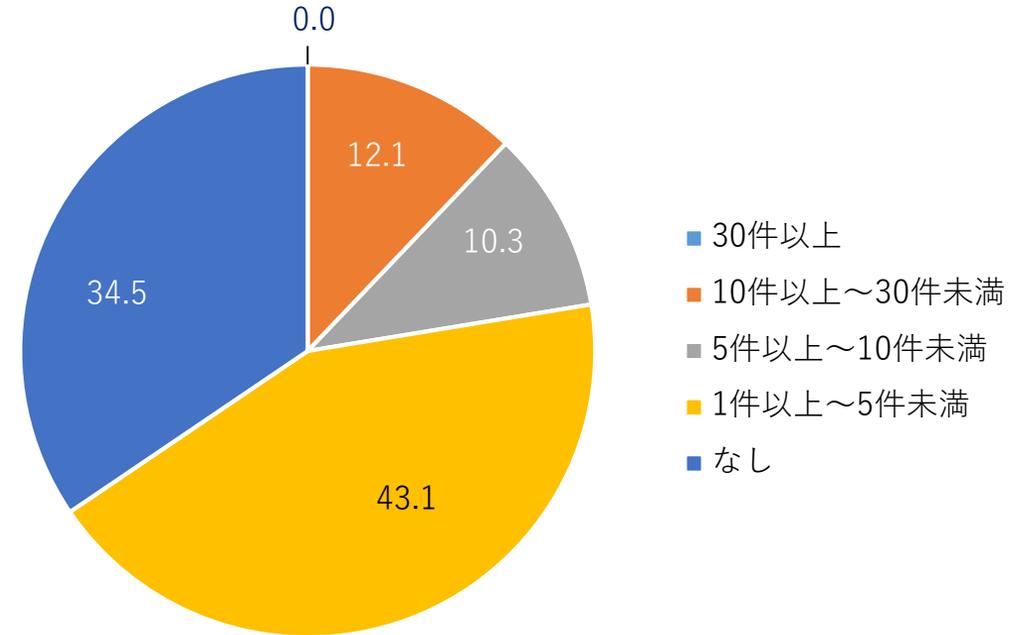
Q12 貴社において、証券会社（セルサイド）アナリストへの個別取材対応は年間何件あるか。

年間5件未満が過半数（55.2%）、このうち時価総額100億円未満企業では、その割合が高い（77.6%）

全回答企業【図表11】



時価総額100億円未満企業【図表12】

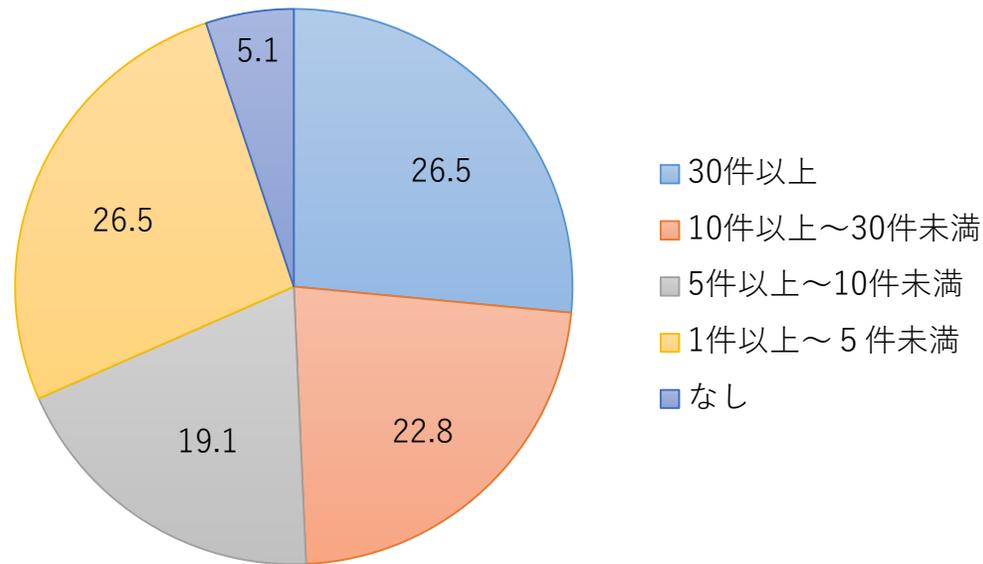


Ⅲ IRの現状

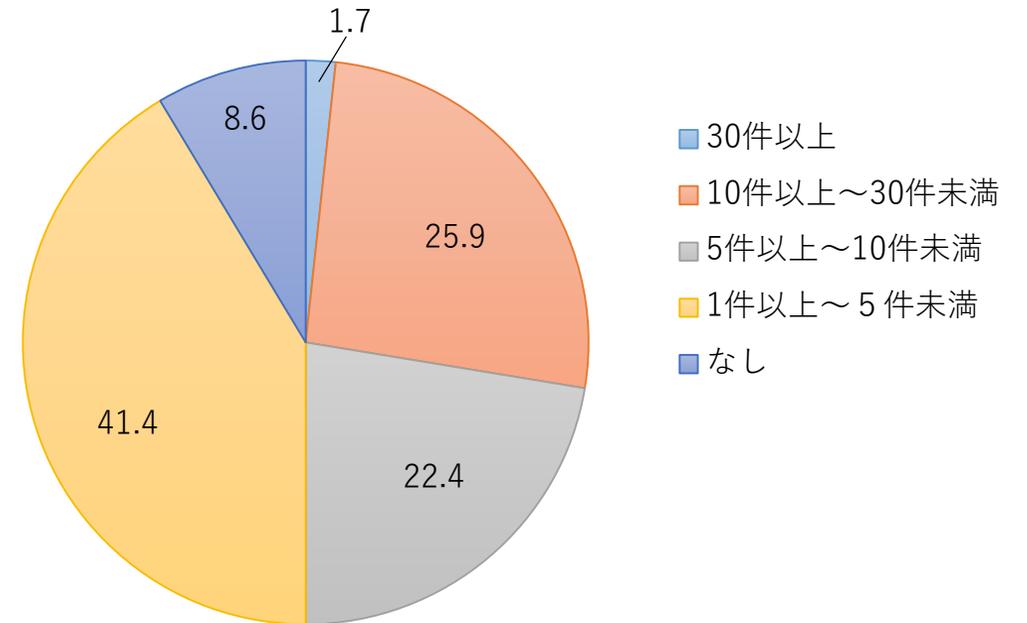
Q13 貴社において、機関投資家（バイサイド）への個別取材対応は年間何件あるか。

年間10件未満が約半数（50.7%）、このうち時価総額100億円未満企業では、その割合が高い（72.4%）

全回答企業【図表13】



時価総額100億円未満企業【図表14】



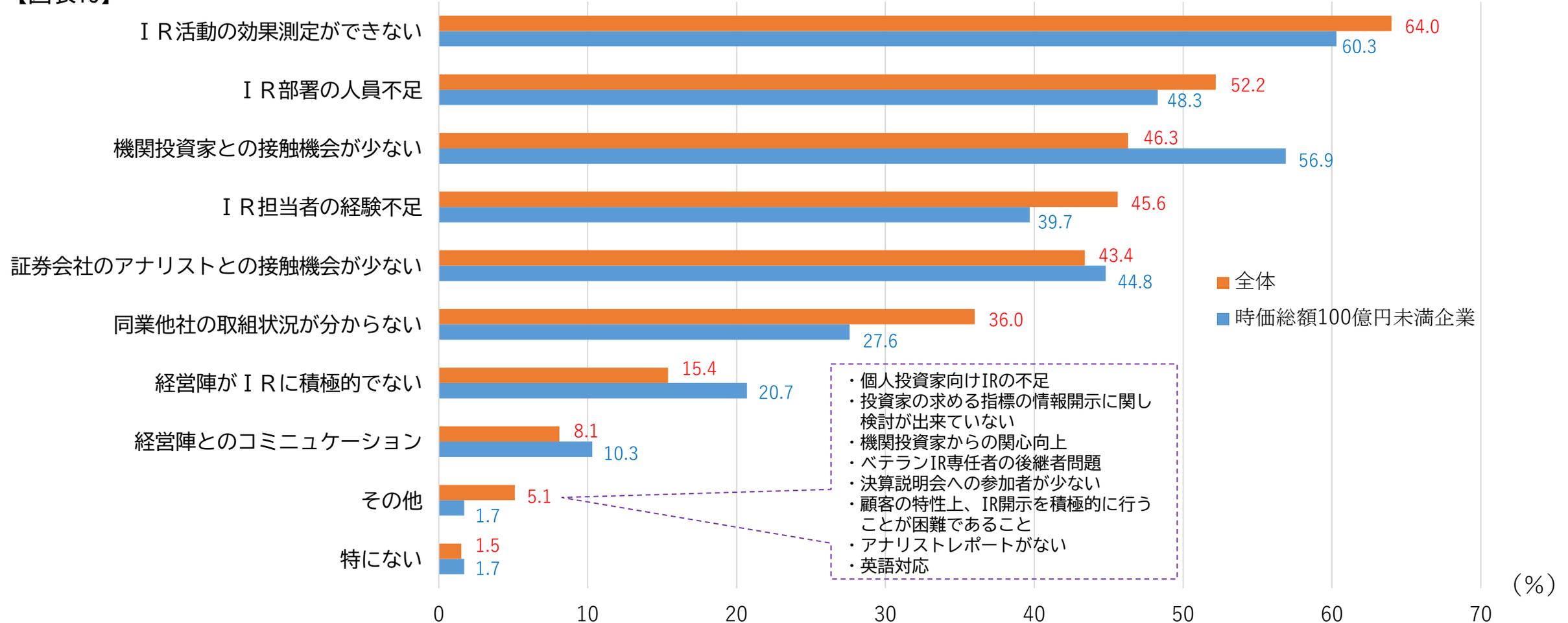
IV IRの課題

Q14 貴社のIR活動における課題は（複数回答可）

「効果測定困難」「人材不足」「接点不足」「経験不足」の割合が高い

時価総額が100億円未満企業では「機関投資家との接点不足」の割合が高い（56.9%）

【図表15】

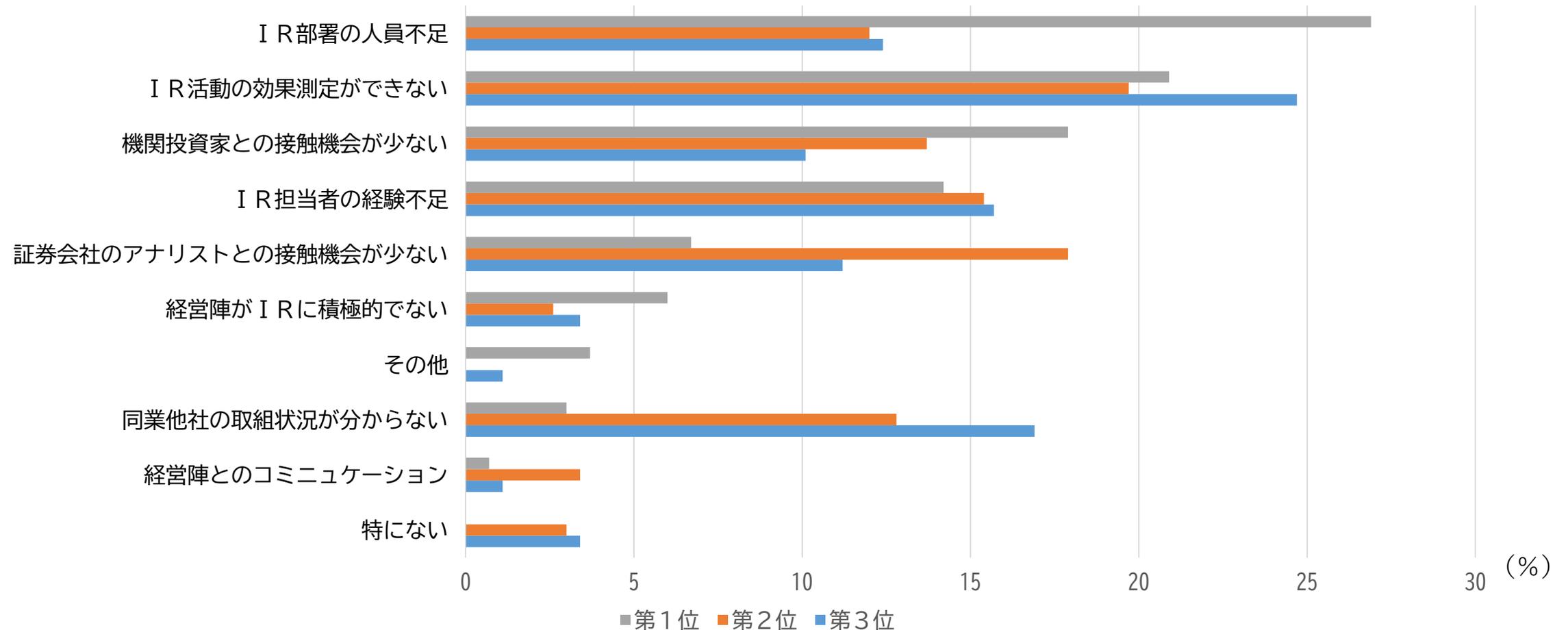


IV IRの課題

Q15(1) 上記Q14で選んだ課題のうち、特に困っているものは（第1位から第3位まで回答可）

IR活動のうち特に困っているもの（第1位）は「人員不足」次いで「効果測定困難」

【図表16】 全回答企業

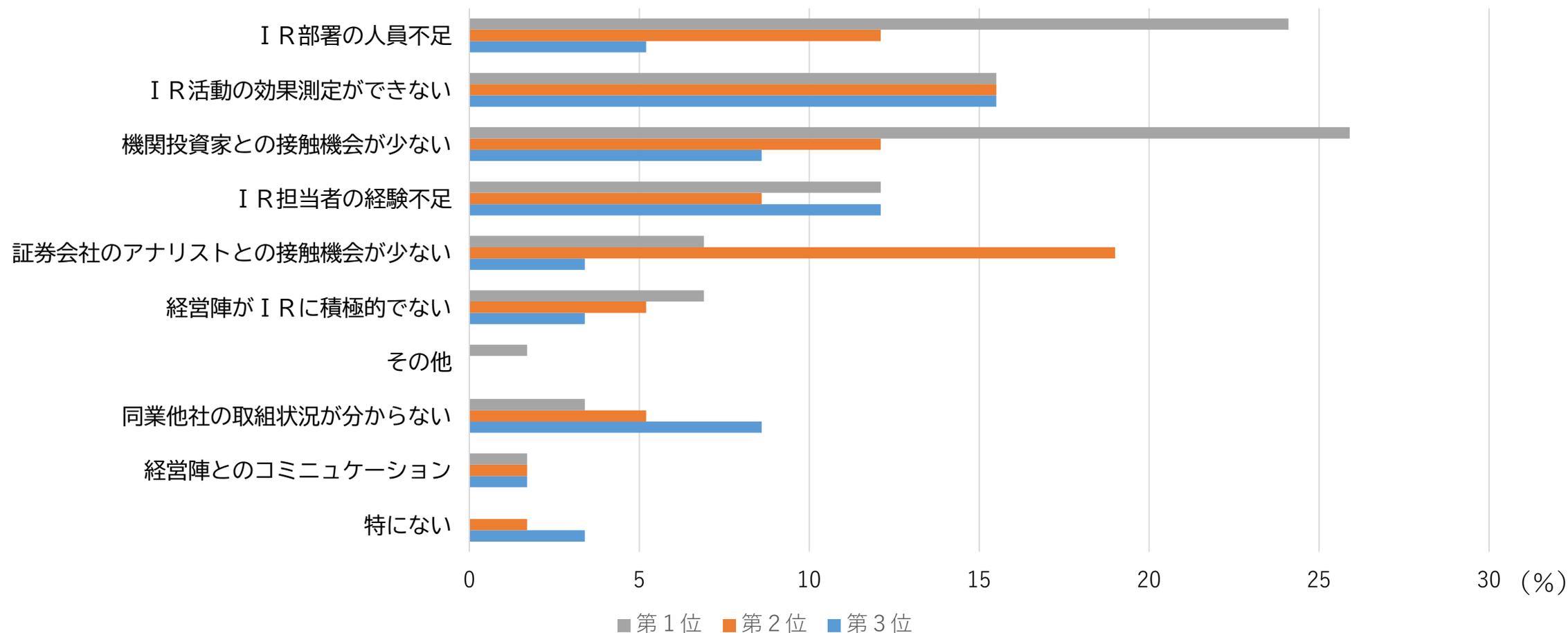


IV IRの課題

Q15(2) 上記Q14で選んだ課題のうち、特に困っているものは（第1位から第3位まで回答可）

IR活動のうち特に困っているもの（第1位）は「機関投資家との接点不足」次いで「人員不足」

【図表17】 時価総額100億円未満企業

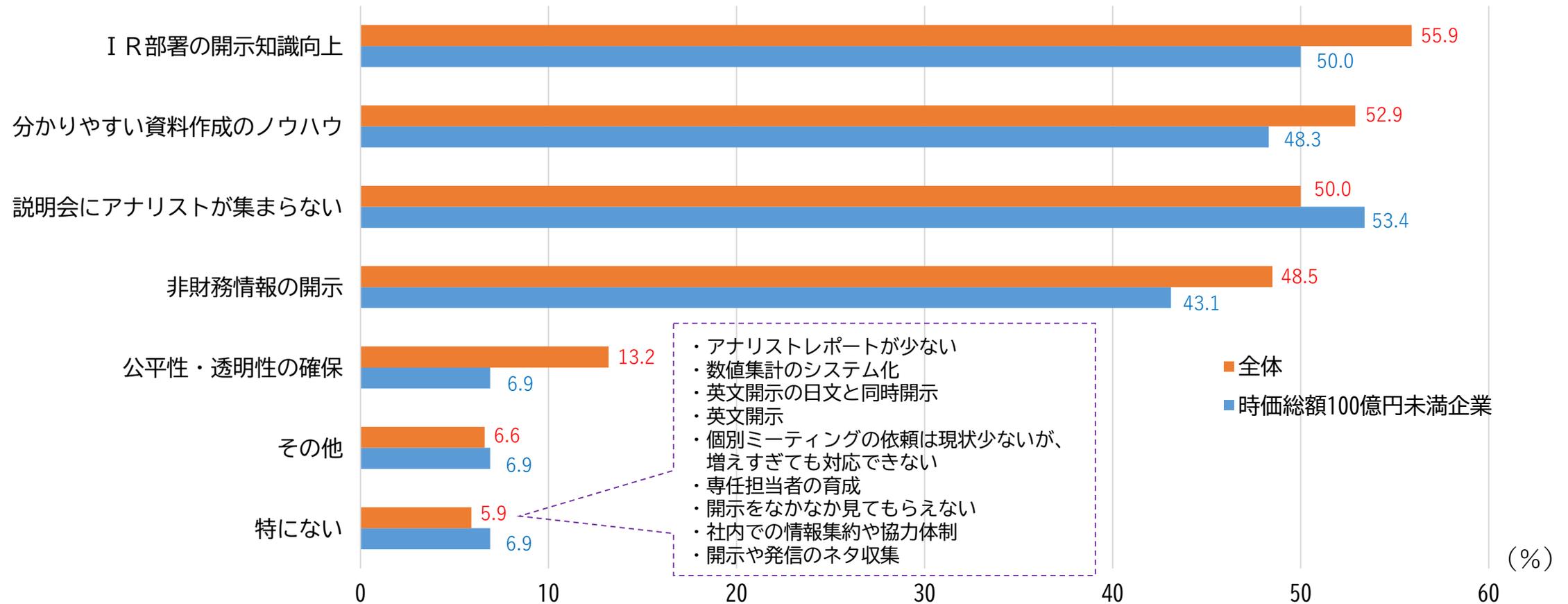


IV IRの課題

Q16 貴社の企業情報の開示・発信等にかかる課題は（複数回答可）

「開示知識向上」「資料作成ノウハウ蓄積」「集客力改善」「非財務情報の開示」の割合が高い
時価総額100億円未満企業では「集客力改善」の割合が最も高い（53.4%）

【図表18】

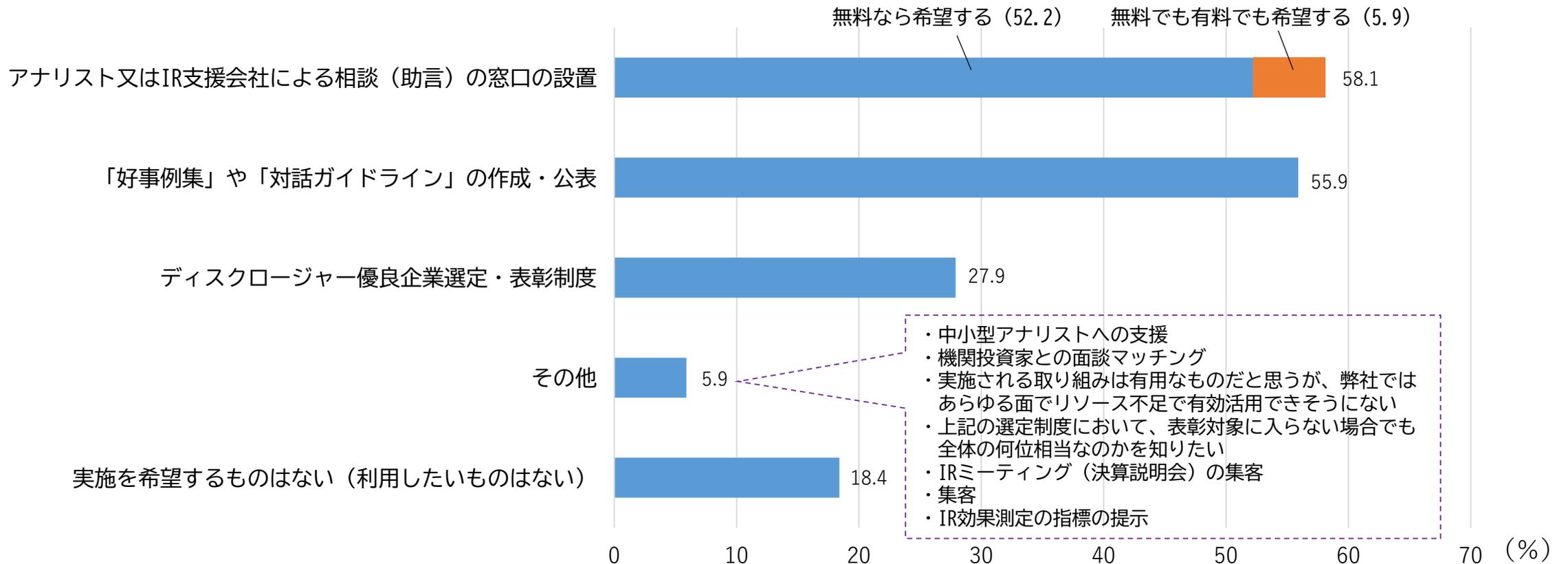


V 支援ニーズと希望施策

Q17(1) 仮に、日本証券アナリスト協会において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合、実施を希望する取組みを3つ以内で選んでください。

「相談窓口」の設置や「好事例集・対話ガイドライン」の作成・公表が過半数を超える

【図表19】 全回答企業

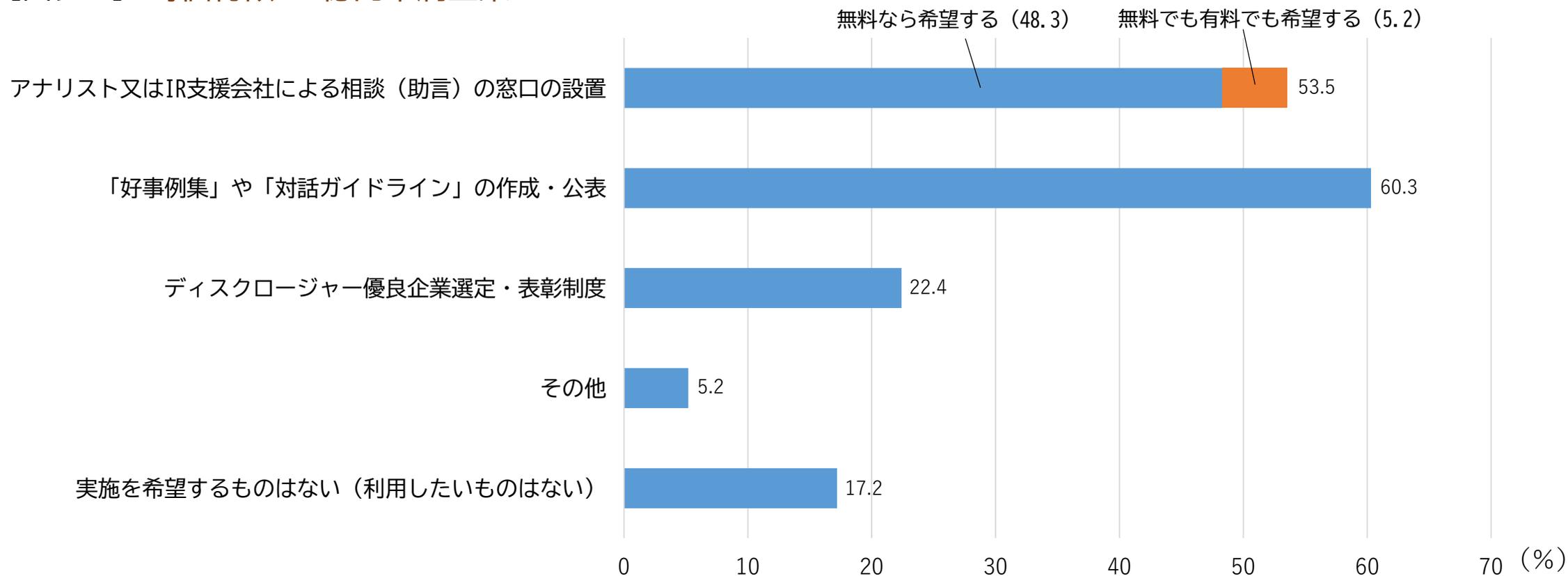


V 支援ニーズと希望施策

Q17(2) 仮に、日本証券アナリスト協会において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合、実施を希望する取組みを3つ以内で選んでください。

「好事例集・対話ガイドライン」の作成・公表や「相談窓口」の設置が過半数を超える

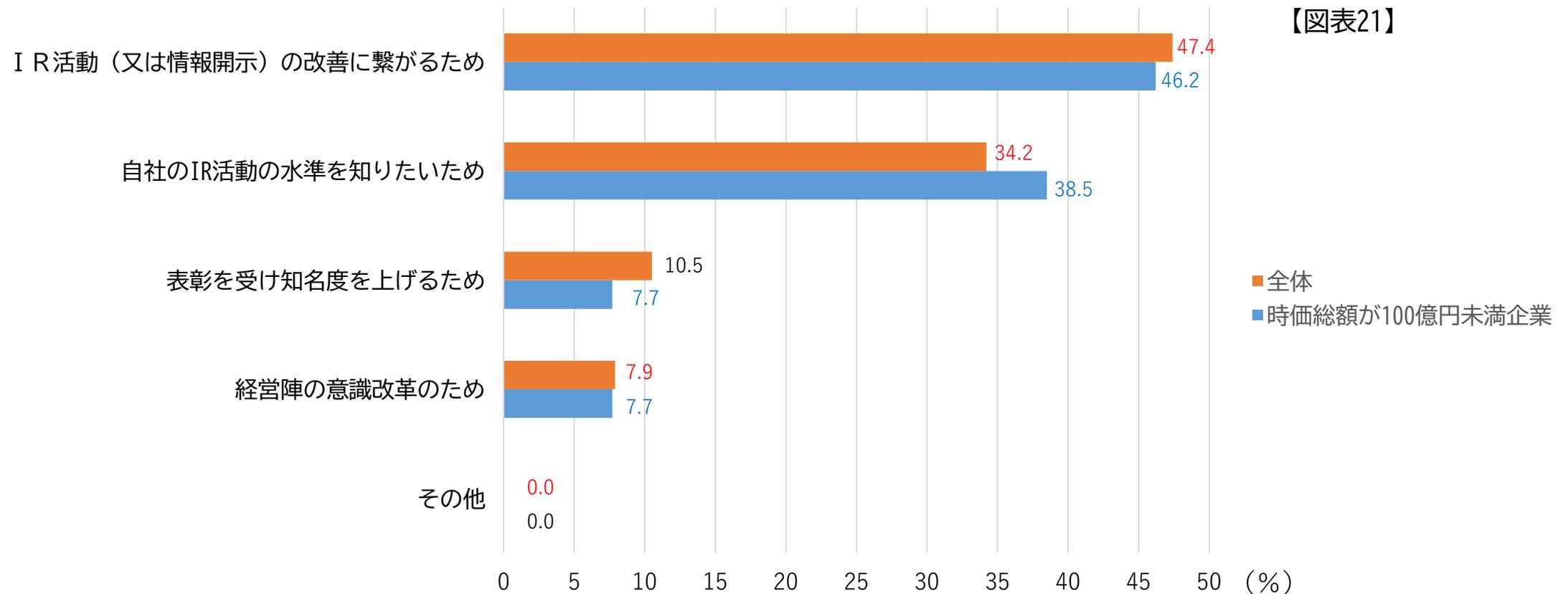
【図表20】 時価総額100億円未満企業



V 支援ニーズと希望施策

Q18 上記Q17にて「ディスクロージャー優良企業選定・表彰制度」の実施を希望した企業に対して、実施を希望した理由は。（複数回答可）

「表彰制度」の実施を希望した理由は、「IR活動又は情報開示の改善に繋がる」や「自社のIR水準を知りたい」が多い



V 支援ニーズと希望施策

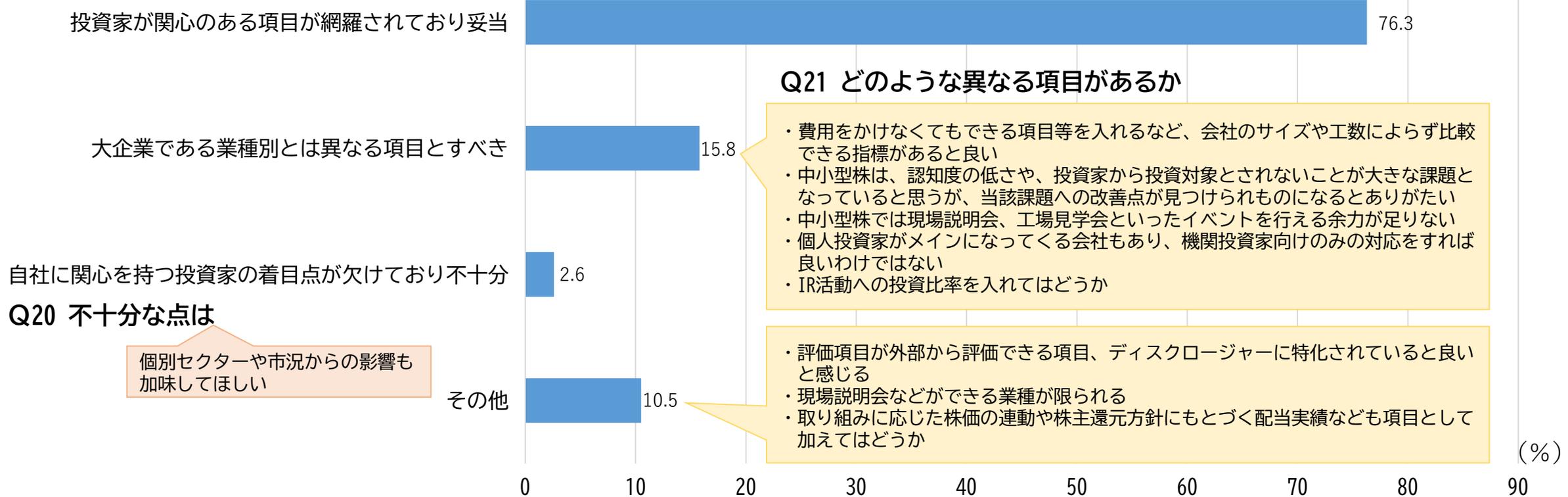
Q19 中小型株上場企業についての表彰制度を新たに設けるとした場合、例えば、以下のような現行の表彰制度の評価項目が考えられるが、これについてどう思うか。（複数回答可）

表彰制度の評価項目については、※現行のディスクロージャー優良企業選定・表彰制度の評価項目と同様で妥当とする企業が大部分（76.3%）

【図表22】

※ 現行の表彰制度の評価項目

- ①経営陣やIR部署（又はIR担当者）のIR姿勢、②決算説明会、インタビュー、説明資料等における開示、③フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢、④非財務情報の開示、⑤現場説明会や工場見学会などの自主的な情報開示



「企業価値向上策」等

- 企業価値向上の具体的な見せ方
- IRをどのように変えたら株価が上がったか
- 企業価値向上施策
- 株価向上につながった実績があるもの
- 他社が行っているIRの取り組みで成果があったものなどが知りたい
- 直近1年間で時価総額を上昇させたグロース企業が行った独自のIR活動などの事例について
- 企業価値向上や出来高に繋がった事例
- 評価されたポイントとその事例が分かるもの
- 成果の出たきっかけなどを具体的に知りたい
- 高評価ポイント、特に株価等外部評価との関係性の明示
- 実際に行って効果的だと思われた例を取りまとめてもらえれば参考になるのでは
- 資本コストや株価を意識した経営に向けた取り組み等
- 成長ストーリーの分かりやすさ
- 評価された内容がわかる企業の具体的な事例
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

「非財務情報」等

- 業績結果の説明の仕方やニーズが高い数値情報、その他非財務情報の見せ方
- 非財務情報

「アナリスト・投資家対応に関すること」等

- バイサイドの属性に応じた対話姿勢
- 例えば、事業説明のスライドに関し、アナリスト目線でスライドのどのような点が好ましいのか
- 好事例の公表、アナリストが選ぶ好事例
- アナリストレポートの採用に繋がった事例、QA回答例
- 決算説明資料やアナリストとの面談内容
- 具体的な事例と投資家から見た評価等
- 個人投資家がどのようなものを望んでいるのか
- 何が投資家目線の資料なのかを解説してほしい
- 投資家から評価された好事例集
- 質疑応答集、対話例
- 各社でのIR取材対応策
- サステナビリティ活動や自社サービスの紹介をしているリリースの好事例や対話において投資家が着目する観点をまとめたもの
- 投資家、アナリストが期待する開示情報の内容
- ファンを増やす為の施策

「経営陣のIR姿勢」等

- 経営陣のかかわり方など
- 消極的な経営陣がその気になるような事例

「中期経営計画」等

- キャッシュアロケーション、中期経営計画
- 中期経営計画のその後の対応など

「セクター別・企業規模別事例」等

- セクター別・企業規模別の事例
- 規模に応じた対応状況の事例
- セクター毎の好事例の公表、アナリストが選ぶ好事例
- 同規模の参考事例がほしい
- 例えば自社と同等の時価総額規模における企業で求められるIR体制・姿勢が分かるようなものがあると非常に分かりやすい
- 同規模同業種の事例
- 大企業などの先進的な取り組み内容ではなく、中小規模レベルでポイントを絞った内容の事例を示していただけると幸いです
- 他社の好事例を参考とさせていただきたい
- 予算が限られる中小企業でもできる取り組み
- 他社の成功事例

「その他」

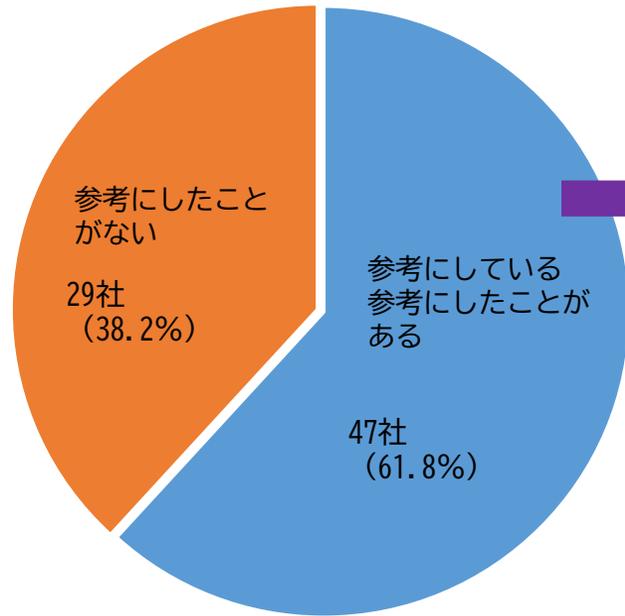
- 直近の法改正等に係る事例
- 上場企業の中で、何社程度がどの項目を開示されているか調査したもの
- 積極的にIR活動をしている状況が客観的にわかる施策・アピール方法
- 技術面などを分かりやすく説明している事例
- 基本的な知識というよりは、実践的な内容が知りたい
- 迅速かつ公平な情報開示、IRツール（動画、SNS）の活用

V 支援ニーズと希望施策

Q23 上記Q17にて「好事例集」等の公表を希望すると回答した企業に対しての質問。これまで既存のIR活動に関する「好事例集」等について、貴社のIR活動の中で参考に使っているか（参考にしたことがあるか）。



約6割が「参考に使っている」「参考にしたことがある」と回答。



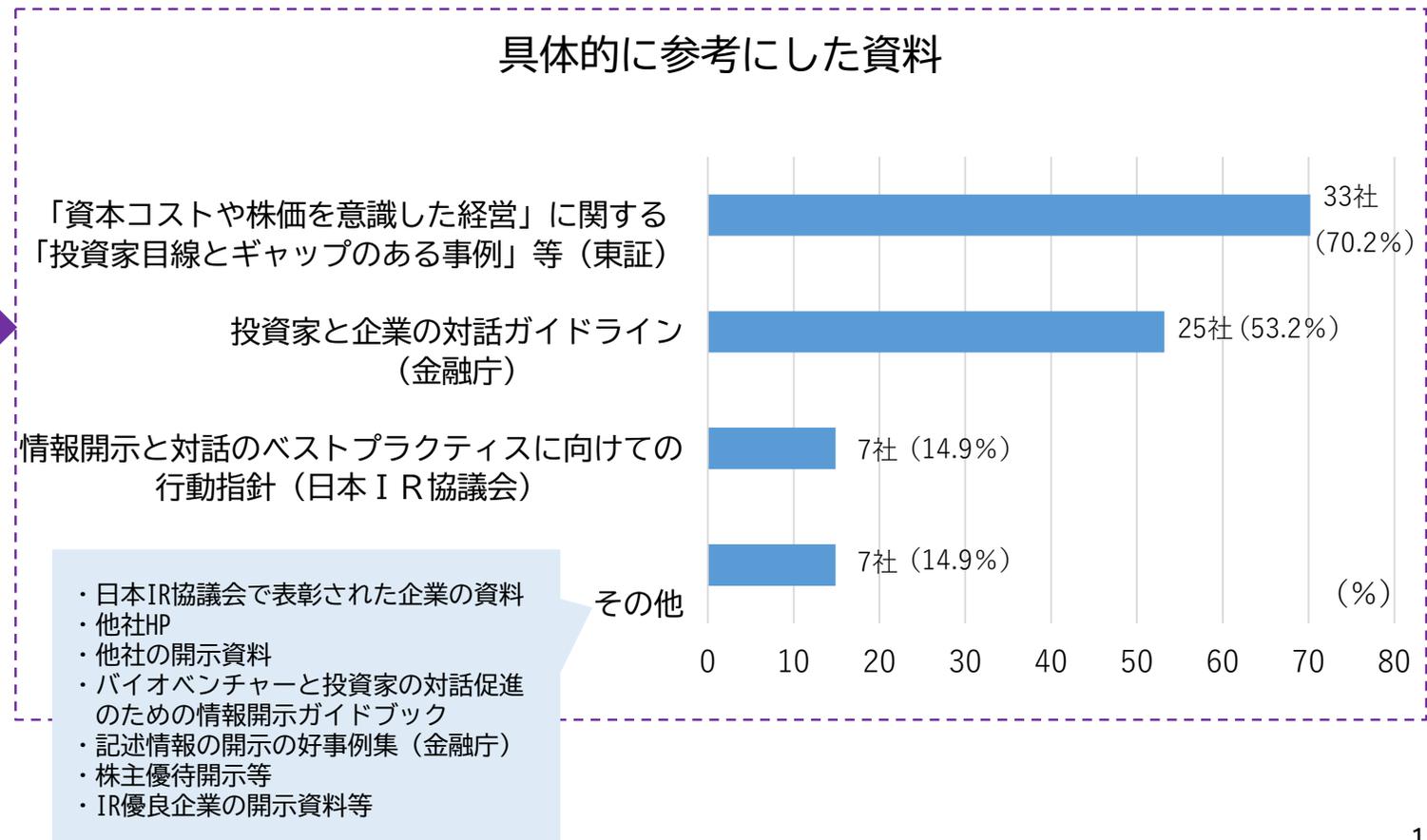
【図表24】

Q24 左記Q23にて「参考に使っている」「参考にしたことがある」と回答した企業に対しての質問。貴社のIR活動の中で参考にした資料は。（複数回答可）



参考にした資料は、「資本コストや株価を意識した経営」に関する「投資家目線とギャップのある事例」等（東証作成資料）が最も多い。

【図表25】



< IR活動の中で参考にした資料 >

- ① 投資家と企業の対話ガイドライン（金融庁）
- ② 「資本コストや株価を意識した経営」に関する「投資者の目線とギャップのある事例」等（東証）
- ③ 情報開示と対話のベストプラクティスに向けての行動指針（日本IR協議会）、④ その他

※文頭の丸付き数字（①～④）は、上記参考資料を示す

「具体的な他社事例を把握」できたこと等

①②他社の施策がわかりやすい

①②他社の取組状況がわかった

①②他企業の動向を知ることで、今自社がどの程度対応できているかを確認できた。また世間の企業と足並みをそろえるための指標となった。

②他社の動向がわかった一方、良い業績・財務体制だからこそできる方法とを感じる部分も

②具体的な他社事例を把握することで、一般的に求められているレベル感を掴むことができる点

②実際の企業名と開示資料を明示している点

④同業他社に比べてどうすれば差別化されるかが分かった（他社開示資料）

「その他」

①要点を理解することができた

①②大企業では良いのかもしれないが、リソースの限られている規模の会社ではなかなか対応が難しい内容もある

①③自社のケースに活用できるものが少なかった

①分かりやすく解説されていた

①②良い点が説明されている

①③ポイントが明確である

「自社IR資料作成の参考」になったこと等

①②初めての資料を作成（情報を公表）する際、どのような表現が投資家の方に伝わるのか悩むので参考にしている

①②基準として参考とした

②資料作成の参考となることがある

②参考になる資料ではあったが、自社の市場段階では対応しきれない部分があると感じた

②具体的に不足している箇所が解説されていた

④PBRの現状分析や改善に向けた施策、また、サステナビリティにかかるKPIに記載方法をどのように記述すべきか非常に参考になった。（金融庁の記述情報の開示の好事例集）

④資料のデザイン、内容の構成等が良かった（IR優良企業の開示資料等）

④資料作成の参考になった（他社HP）

①②当社に欠けている視点が明確になった

①②事例と評価ポイントが分かりやすく記載されており、IR関連資料の作成時に参考にしやすいかった

①②「好事例」だけではなく「改善例」の掲載

①②どのような開示が評価されるか、何を知りたいかわかった

②立場による目線の違いがわかりやすい

②③IRの方向性が示された

②③IR協議会からのフィードバック資料

「投資家目線でのポイント」が記載されていた等

②投資家目線でのポイントが記載されている点

④投資家目線でどの情報が必要とされているかが分かった（他社開示資料）

②投資家にとっての分かりやすさに関する解説

①②投資者の目線が分かるのが良い、但し自社では適用することが困難な例も多い

①②③投資者の視点を踏まえて多面的に分析・評価すること事例がよかった

②投資者の目線とギャップのある事例

①②④バイオベンチャーが取り組むべき情報開示や投資家から求められる情報発信について包括的に記載されているため（バイオベンチャーと投資家の対話促進のための情報開示ガイドブック）

②投資家が良いと考えている事項が知ることができた点

②投資者とのギャップは、なかなかわかりづらい項目であるので非常に参考になった

①改定のポイントや実際の個人及び団体からの意見

①②具体例が豊富なこと

④企業価値の向上や出来高つながった点（株主優待開示等）

②説明がわかりやすい

①網羅的

②市場ごとに具体例を示して解説があった点が良かった

①②③課題感のなかで、どの点が良いかの明確化

「効果的なIR手法や成長戦略」等

- 効果的なIR手法
- 成長戦略のアピールの仕方
- 企業価値向上に資する経営戦略に関する助言
- 効果的なIRミーティングの形態
- 投資家が望むIR情報の充実に向けた助言
- 効果的なアピール方法
- 当社に必要なIR活動や機関投資家、アナリストが求める開示内容
- 開示している情報で不足している点、IR活動に求める点
- 出来高を増やすために必要な取組みのアドバイス
- 社内意識向上方法
- 業界内の他社の動向や外部からの客観的な視点
- 中長期の成長をどのように評価しているのか、どんな指標を重視しているのか
- 自社IRに対する具体的アドバイス
- 自社が株式市場で認識されるようになる取組みや実施できていないことなど
- 当社IR情報の評価
- PBR改善に向けた財務戦略をどうすべきか
- 当社のIR活動について不足している部分や今後のIR活動方針についての助言を頂きたいです
- 当社のIR活動での課題、知名度向上の方法
- IR活動の在り方、社内の理解向上施策、機密保持

- 当社の取り組み状況が中小型株上場企業の中で妥当か（遅れていないか）
- どのように評価されているのかを経営陣に分かったもらうための方策
- 当社に合ったIR活動の見直し方法
- 自身の対話のやり方が適切なやり方なのか
- どのようなIR活動を行えば（あるいは資料を提供すれば）アナリストは企業に興味を持ってくれるか
- 当社の経営指標として何を見せるのが適切かという点についてご相談したい
- 自社の属する業界に対し、どうすれば興味を持ってもらえるかを相談したいです。

「非財務情報の開示方法」等

- 非財務情報の具体的且つユニークな記載方法
- 企業分析における非財務情報の活用方法について

「投資判断に寄与する情報の充実」等

- アナリストにレポートを書いてもらうために必要なこと
- 株価上昇につながるプレゼンのポイント
- アナリストが中小型株に対して、IRで最も必要とされる情報やツール、イベントは何か確認したい。そこからもう少し内容を掘り下げて情報を伺いたい。
- セルサイドアナリストへの発信、株価向上への取組み
- 海外IRの充実

「IR資料の改善点や投資家視点のポイント」等

- 投資家目線でのIR資料のポイント、課題の抽出
- 投資家として、重視している情報
- 現在開示している内容に足りない内容
- 開示資料について
- どのようにしたらもっと注目してもらえるのか
- クローズアップする事項について
- 当社の開示が不足している情報は何か
- 資料の作り方や他社事例等
- 開示資料の改善点
- 当社資料に足りてない情報、追加した方がよい項目
- 開示資料内容についてのアドバイス
- 株主、投資家が注目しているポイント
- 資料内容、IR側面支援
- 現在の資料のどこを改善すれば投資家目線の資料になるかどうか
- アナリストが求める資料事例など
- アナリスト（プロ投資家）目線でのマテリアル記載事項やその内容

懸念事項としては

- 投資判断における開示内容の十分性や助言の精度
- アナリストからの助言やアドバイスについて役員及び経営陣が積極的に動いてくれるかどうか

V 支援ニーズと希望施策

Q28 IR支援会社を利用している目的は
(複数回答可)

- ・IR活動の効率化 (35社)
- ・IR体制強化のため (34社)
- ・IR活動のノウハウ取得 (31社)
- ・アナリストとの接点強化 (18社)

【図表29】

- ・その他 (6社)
 - ・資料作成支援とリアル配信支援
 - ・書き起こし記事掲載
 - ・IR活動を本格的に開始した当初からの継続
 - ・レポート配信
 - ・有償レポートを依頼するため
 - ・メディアを利用、幅広い情報発信に活用

【図表30】

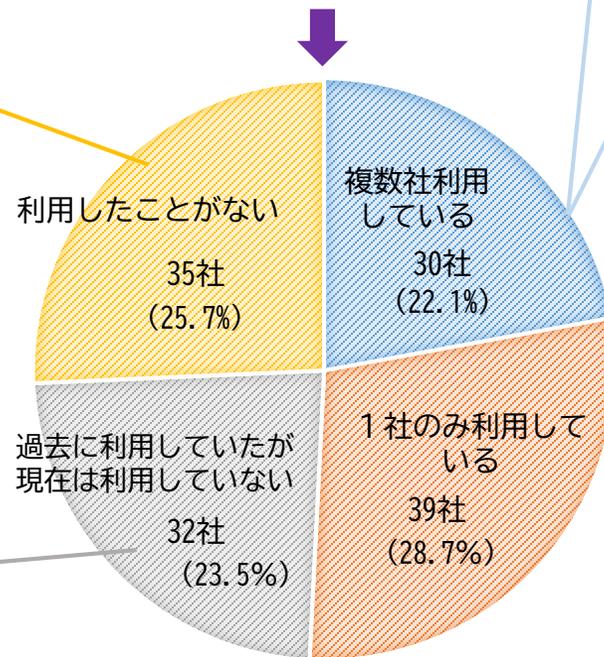
Q29 IR支援会社を利用して良かった点は

- ・業務効率化 (8社)
- ・多くの投資家への情報発信 (7社)
- ・集客力 (5社)
- ・ノウハウの提供 (5社)
- ・説明会の円滑な運営 (4社)
- ・資料作成のサポート (5社)
- ・情報収集力 (4社)
- ・ステークホルダーへの伝わる開示の強化
- ・人数を自社で抱えるよりコストパフォーマンスが良い
- ・ノウハウを活用してIR活動の質的向上に繋げることができた
- ・投資家と新たな接点を作ることができた
- ・幅広い投資家への認知向上
- ・資料の翻訳とアドバイス
- ・わからないことがあった時の相談窓口になる
- ・アナリスト向け決算説明会に新規のアナリストやファンドマネージャーが参加
- ・自社のIR活動を客観的視点で分析できる
- ・システムの提供
- ・レポート作成
- ・決算説明会事務を代行、費用対効果を考えると依頼してよかった
- ・上場当初投資家からの質問事項にどう回答して良いか迷っているときにアドバイスがもらうことができた
- ・投資家からの質問の意図が分からないことも多々あったので、都度解説してもらった
- ・資料のフィードバックがある点
- ・工数の削減、新たな投資家との接点
- ・手探りで活動している部分についてロジカルに評価してもらうことができる
- ・開示事例、開示タイミング等の相談ができる
- ・IR支援会社の専門知識と豊富な経験を当社のIR活動に活かせる点
- ・会場対応等の人的援助を得られること
- ・外部知見の導入
- ・社内展開、第三者からの客観的な評価
- ・海外機関投資家に対するアポイントの効率化

Q27(2) IR支援会社を利用したことがない理由は
【図表32】

- ・費用が高い (8社)
- ・費用対効果が図りにくい (3社)
- ・特に必要としない (3社)
- ・自社で対応可能 (3社)
- ・ニーズがない
- ・役員が積極的でない、役員の許可が出ない
- ・会社の方針
- ・株式の流通性が低く注力してこなかった
- ・市場との対話で充足

Q27(1) 貴社のIR活動においてIR支援会社(当協会のIRミーティングを除く)を利用しているか



【図表28】

Q30 IR支援会社の利用を止めた理由は
【図表31】

- ・利用メリットがなかった (20社) (複数回答可)
- ・IR体制が整備された (4社)
- ・IR活動のノウハウを得た (4社)
- ・IR活動の効率化が図れた (1社)
- ・その他 (7社)
 - ・費用が高い (4社)
 - ・費用対効果が定量的に測定できない
 - ・経費削減
 - ・リソースが足りない

VI IR支援にかかる意見・要望等

Q31 企業とアナリストとの対話に係る当協会の取組みに関する意見・要望【図表33】

- いろいろサポートしてもらい感謝している
- 適切な情報発信を参考にしている
- IR面談アレンジサービスがあると嬉しい
- 回数の増加、対話ができる場を設けてほしい
- アナリスト側が発行体に対してどのような情報開示を求めているのかを教えてください
- セミナーを開催してくれてありがたい
- 定期的な情報提供
- 貴協会が具体的にどのような取組みをしているか分かりかねている
- 説明会・IRミーティングの開催情報をもっとアナリストに周知してほしい
- 有力アナリストとの橋渡しをして欲しい

Q32 当協会のアナリスト向けIRミーティングへの意見・要望【図表34】

- いつも親切で適切な対応に感謝している
- 資料作成に関するアドバイス
- 集客の支援・強化
- 前日までに予約した参加者情報の共有
- IRミーティングには、当社に興味がある方ではなく、当社に営業する目的で参加されている方が多い印象。もう少し機関投資家の方に参加してもらいたい
- 説明会に銀行やM&A仲介などを入れなくしてほしい
- 今後とも良い情報があればよろしくお願ひしたい
- もう少し集客活動に工夫がほしい（当社の魅力がないという理由もあるかとは思いますが、決まったアナリストしか参加されないため）

Q33 当協会の個人投資家向けIRセミナーへの意見・要望【図表35】

- 大変ありがたい。非常に役に立っている
- コスト面で効果がわかりにくいので、リーズナブルな参加費を検討いただきたい
- 開催地の拡大
- 複数企業での開催を検討していただきたい
- 幅広い年齢層の個人投資家に参加案内してほしい
- 集客人数が極端に少ない場合があった
- 登壇企業の控室の確保（終了後も使える部屋）
- 個人投資家説明会は効果測定の難しさがあり、砂漠に水のような状態なので、それをなんとかしてほしい
- 個人投資家向けIRセミナーは他社を利用することが多いが、費用面や動員数・ターゲット層など優位点を周知してもらえると、検討候補にしたい

VII 当協会の活動に関する意見・要望等 Q34 企業とアナリストの対話にかかる協会の取組みに関して【図表36】

- 決算説明会にていつもお世話になりありがとうございます
- IRの場を設けてもらい助かっている
- いつもありがとうございます、毎回、丁寧にご対応くださり大変助かっている
- いつも大変お世話になり、ありがとうございます
- 具体的にどのようなことをしていただけるのか案内をしていただきたい
- IR活動の充実に向けた、グロース企業を対象とした意見交換の場を作っていただけると嬉しい（他社も交えて）
- いつもご丁寧にご対応いただき感謝している

「中小型株等上場企業の情報開示向上の取組み」に関するアンケート質問項目等

項番	質問項目	回答項目（選択肢）
Q1	貴社の取引所市場区分（2025年4月1日現在）を選んでください。	1 プライム 2 スタンダード 3 グロース
Q2	貴社の取引所上場期間（2025年4月1日現在）を選んでください。	1 5年以上 2 1年以上～5年未満 3 1年未満
Q3	貴社の時価総額（2025年4月1日現在）を選んでください。	1 500億円以上 2 200億円以上～500億円未満 3 100億円以上～200億円未満 4 50億円以上～100億円未満 5 50億円未満
Q4	貴社IR担当の人数（兼務を含む）を選んでください。	1 5名以上 2 4名 3 3名 4 2名 5 1名
Q5	貴社IR担当の人数（専任のみ）を選んでください。	1 5名以上 2 4名 3 3名 4 2名 5 1名 6 0名
Q6	IR体制について当てはまるものを選んでください。 （専任の部署とは、組織規程等で明示されているもの）	1 専任の部署がある 2 専任の部署はない 3 その他（具体的に記載してください）
Q7	IR専任の部署があるとお答えの方にお聞きます。 貴社IR部署が属する部門を選んでください。（すべて）	1 企画 2 財務 3 広報 4 その他（具体的に記載してください）
Q8	IR専任の部署があるとお答えの方にお聞きます。 貴社IR部署の責任者（部署の長）の役職を選んでください。	1 役員クラス 2 部長クラス 3 課長以下クラス 4 その他（具体的に記載してください）
Q9	社長のIR姿勢について、最も近いものをひとつを選んでください。	1 あらゆるIR活動に積極的にかかわる 2 定期的に機関投資家等を訪問し説明を行う 3 決算説明会に加え、自社設営のミーティングに参加して説明を行う 4 決算説明会（のみ）に参加しメインスピーカーとして説明を行う 5 資料作成にかかわるがメインスピーカーではない 6 全くかかわらない
Q10	貴社が現状行っている主なIR活動を選んでください。（すべて）	1 決算（四半期を含む）説明会 2 各種イベント（事業説明会、工場見学を含む） 3 スモール・ミーティング 4 アナリスト向けIRミーティング 5 個人投資家向け等のIRセミナー 6 証券会社（セルサイド）アナリストの個別取材への対応 7 機関投資家（バイサイド）への個別取材への対応 8 IR関係Webサイトの充実 9 その他（具体的に記載してください）
Q11	Q10でお答えいただいたもののうち 貴社が特に力を入れているIR活動を選んでください。（3つまで）	1 決算（四半期を含む）説明会 2 各種イベント（事業説明会、工場見学を含む） 3 スモール・ミーティング 4 アナリスト向けIRミーティング 5 個人投資家向け等のIRセミナー 6 証券会社（セルサイド）アナリストの個別取材への対応 7 機関投資家（バイサイド）への個別取材への対応 8 IR関係Webサイトの充実 9 その他（具体的に記載してください）
Q12	貴社において、証券会社（セルサイド）アナリストへの個別取材対応は年間何件ありますか。当てはまるものを選んでください。	1 30件以上 2 10件以上～30件未満 3 5件以上～10件未満 4 1件以上～5件未満 5 なし
Q13	貴社において、機関投資家（バイサイド）への個別取材対応は年間何件ありますか。当てはまるものを選んでください。	1 30件以上 2 10件以上～30件未満 3 5件以上～10件未満 4 1件以上～5件未満 5 なし
Q14	貴社のIR活動における課題を選んでください。（すべて）	1 経営陣がIRに積極的でない 2 IR部署の人員不足 3 IR担当者の経験不足 4 証券会社のアナリストとの接触機会が少ない 5 機関投資家との接触機会が少ない 6 同業他社の取組状況が分からない 7 経営陣とのコミュニケーション 8 IR活動の効果測定ができない 9 その他（具体的に記載してください） 10 特になし

項番	質問項目	回答項目（選択肢）
Q15	Q14で選んだ課題のうち、特に困っているものを困っている順に順位付けしてください。（3位まで順位付け）	<ol style="list-style-type: none"> 1 経営陣がIRに積極的でない 2 IR部署の人員不足 3 IR担当者の経験不足 4 証券会社のアナリストとの接触機会が少ない 5 機関投資家との接触機会が少ない 6 同業他社の取組状況が分からない 7 経営陣とのコミュニケーション 8 IR活動の効果測定ができない 9 その他（具体的に記載してください） 10 特になし
Q16	貴社の企業情報の開示・発信等にかかる課題を選んでください。（すべて）	<ol style="list-style-type: none"> 1 IR部署の開示知識向上 2 説明会にアナリストが集まらない 3 分かりやすい資料作成のノウハウ 4 公平性・透明性の確保 5 非財務情報の開示 6 その他（具体的に記載してください） 7 特になし
Q17	仮に、日本証券アナリスト協会（以下、「当協会」といいます。）において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合、実施を希望する取組みを3つ以内で選んでください。 （注）現在、当協会では、ディスクロージャー優良企業選定・表彰制度（業種別18業種、個人投資家向け情報提供、新興市場銘柄）を設けていますが、大企業中心の評価制度となっており、中小型株等上場企業は評価対象とはなっていません。 ▼参考：日本証券アナリスト協会HP https://www.saa.or.jp/standards/disclosure/index.html	<ol style="list-style-type: none"> 1 中小型株等上場企業（30社程度）を対象としたディスクロージャー優良企業選定・表彰制度（注） 2 企業情報の開示向上等にかかる「好事例集」や「対話ガイドライン」の公表 3 アナリスト又はIR支援会社による相談（助言）窓口の設置（有料でも利用したい） 4 アナリスト又はIR支援会社による相談（助言）窓口の設置（無料なら利用したい） 5 その他（具体的に記載してください） 6 実施を希望するものはない（利用したいものはない）
Q18	Q17にて、「日本証券アナリスト協会において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合」に、実施を希望する取組みとして【中小型株等上場企業（30社程度）を対象としたディスクロージャー 優良企業選定・表彰制度】をお選びになった方にお聞きします。 実施を希望された理由として最も当てはまるものをひとつ選んでください。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自社のIR活動の水準を知りたい 2 表彰を受け知名度を上げたい 3 IR活動（又は情報開示）の改善に繋がるため 4 経営陣の意識改革のため 5 その他（具体的に記載してください）
Q19	中小型株上場企業についての表彰制度を新たに設けるとした場合、たとえば、以下のような評価項目（現在の業種別18業種と同じ）が考えられますが、これについてはどう思いますか。 ・経営陣やIR部署（又はIR担当者）のIR姿勢 ・決算説明会、インタビュー、説明資料等における開示 ・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢 ・非財務情報の開示 ・現場説明会や工場見学会などの自主的な情報開示 当てはまるものを選んでください。（すべて）	<ol style="list-style-type: none"> 1 投資家が関心のある項目が網羅されており妥当 2 自社に関心を持つ投資家の着目点が欠けており不十分 3 大企業である業種別とは異なる項目とすべき 4 その他（具体的に記載してください）
Q20	Q19にて、「自社に関心を持つ投資家の着目点が欠けており不十分」をお選びになりました。どのようなところが不十分だと思われましたか。お教えてください。	自由記述
Q21	Q19にて、「大企業である業種別とは異なる項目とすべき」をお選びになりました。どのような異なる項目がありますか。お教えてください。	自由記述
Q22	Q17にて、日本証券アナリスト協会において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合に、実施を希望する取組みとして【企業情報の開示向上等にかかる「好事例集」や「対話ガイドライン」の公表】をお選びになった方にお聞きします。どのような内容を含んだ「好事例集」や「対話ガイドライン」があれば良いですか。お教えてください。	自由記述
Q23	これまで既存のIR活動に関する「好事例集」や「対話ガイドライン」について、貴社のIR活動の中で参考にしていますか（したことがありますか）。	<ol style="list-style-type: none"> 1 参考にしている（したことがある） 2 参考にしていない
Q24	貴社のIR活動の中で参考にされていた資料は具体的には何ですか。当てはまるものを選んでください。（すべて） ▼参考 ・選択肢1（金融庁）の参考情報： https://www.fsa.go.jp/news/r2/singi/20210611-1.html ・選択肢2（東証）の参考情報： https://www.jpx.co.jp/news/1020/20241121-01.html ・選択肢3（日本IR協議会）の参考情報： https://www.jira.or.jp/activity/guiding.html	<ol style="list-style-type: none"> 1 投資家と企業の対話ガイドライン（金融庁） 2 「資本コストや株価を意識した経営」に関する「投資者の目線とギャップのある事例」等（東証） 3 情報開示と対話のベストプラクティスに向けての行動指針（日本IR協議会） 4 その他（具体的に記載してください）
Q25	Q24でお選びになった参考資料について、どのような点が良かった（又は、悪かった）ですか。お教えてください。	自由記述
Q26	Q17にて、「日本証券アナリスト協会において、新たに中小型株等上場企業を対象としたIR活動支援を行うとした場合」に、実施を希望する取組みとして3又は4を選んだ方にお聞きします。 アナリストにどのような相談をしたいですか（助言を求めますか）。また、アナリストに相談した場合に何か懸念する点がありますか。お教えてください。	自由記述
Q27	貴社のIR活動においてIR支援会社（当協会のIRミーティングを除く）を利用していますか。当てはまるものを選んでください。	<ol style="list-style-type: none"> 1 複数社利用している 2 1社のみ利用している 3 過去に利用していたが、現在は利用していない 4 利用したことがない（理由を記載してください）
Q28	IR支援会社を利用しているとお答えになった方にお聞きします。IR支援会社を利用している目的を選んでください。（すべて）	<ol style="list-style-type: none"> 1 IR体制強化のため 2 IR活動のノウハウを得るため 3 IR活動の効率化（経費削減等を含む） 4 アナリストとの接点強化 5 その他（具体的に記載してください）
Q29	IR支援会社を利用しているとお答えになった方にお聞きします。IR支援会社を利用して良かったと思う点は何ですか。お教えてください。	自由記述
Q30	IR支援会社を現在は利用していないとお答えになった方にお聞きします。IR支援会社の利用を止めた理由は何ですか。当てはまるものを選んでください。（すべて）	<ol style="list-style-type: none"> 1 IR体制が整備されたため 2 IR活動のノウハウを得たため 3 IR活動の効率化が図れたため 4 IR支援会社の利用メリットがなかったため 5 その他（具体的に記載してください）
Q31	企業とアナリストとの対話に係る当協会の取組みに関して、ご意見、ご要望がありましたら記入してください（アナリストカバレッジの確保以外について）。（任意）	自由記述

項番	質問項目	回答項目（選択肢）
Q32	当協会のアナリスト向けIRミーティングへのご意見・ご要望等がありましたら記入してください。（任意）	自由記述
Q33	当協会の個人投資家向けIRセミナーへのご意見・ご要望等がありましたら記入してください。（任意）	自由記述
Q34	そのほか、当協会の活動についてご意見がありましたら記入してください。（任意）	自由記述